

2022-2026

JCI FUKUYAMA

未来ビジョン



誰もが挑戦し続ける
ことの出来る福山を
とものつくろう



目次

2022-2026 JCI FUKUYAMA 未来ビジョンとは	2
VisionStatement	3
青年会議所とは	4
福山青年会議所の原理原則	5
現状分析	6
StrategicMap とは	7
StrategicMap	10
私たちの目指す未来の福山	11
社会	
福山	× 社会 12
備後／瀬戸内	× 社会 13
日本	× 社会 14
産業	
福山	× 産業 15
備後／瀬戸内	× 産業 16
日本	× 産業 17
環境	
福山	× 環境 18
備後／瀬戸内	× 環境 19
日本	× 環境 20
人財	
福山	× 人財 21
備後／瀬戸内	× 人財 22
日本	× 人財 23
組織	
福山	× 組織 24
備後／瀬戸内	× 組織 25
日本	× 組織 26
5年後の福山	27
検証について	28

2022-2026JCIFUKUYAMA 未来ビジョンとは

(一社) 福山青年会議所 (JCI 福山) はこれまで中長期的な運動指針として、2001 年に「JayCee の本懐」、2011 年に「万里一空」を策定いたしました。これらは JCI 福山の中で運用され、組織の想いを 1 つにして運動の成果を最大化するために活用してきました。

今回策定した未来ビジョンは、JCI 福山が今後 5 か年の中で実現すべきまちの姿や組織の未来像を示しています。JCI 福山が示すまちづくりの方向性をまち全体で共有、共感し、あるべき姿の実現に向けともに行動していただくためのツールです。

ビジョンの策定に向け多くのまちの声を聞き、ともに未来のまちのあるべき姿を考えました。青年会議所は綱領に「明るい豊かな社会を築き上げよう」と定めています。これは永劫不変な理念とされており、「明るい豊かな社会」のあるべき姿とはその時々々の社会情勢や時代の流れにより変化していくものでもあります。

2022 - 2026 JCI FUKUYAMA 未来ビジョンは時代の変化に柔軟に対応し、反映することの出来るビジョンです。

「明るい豊かな社会」の実現のため、ともに歩んでまいりましょう。

VisionStatement

JCI 福山は、まちをより良く出来ると信じ、率先して多くの事業の構築を行い、運動を展開し課題の解決をしてきました。しかし福山にはまだまだ多くの課題があります。

JCI 福山が行ってきた事業により、まちの課題を自分事と捉え自ら行動する市民は増えてきています。しかし、まだまだ取り残されているひとがいるのも事実です。その結果、誰もが地域課題を自分事と捉え、解決に向け挑戦し続けること、一人ひとりの抱く夢や目標達成に向け挑戦し続けること出来るまちにはなりきれていません。JCI 福山が行う運動は、まちを確実により良いまちへと導き、持続可能な地域福山を実現させるものでなくてはなりません。

持続可能な地域福山とは、誰も取り残すことなく、誰もが挑戦し続け、地域課題を明らかにし解決されるサイクルを官民連携して回すまちの姿です。

これまでのように、JCI 福山だけの考えや力だけでは持続可能な地域福山の実現はとてつもない時間を要してしまいます。しかし福山には目の前にある地域課題の解決に向け、ともに考え、ともに学び、ともに行動が出来、パートナーになりうる約 47 万人もの市民がいます。

未来の福山を、誰もが次世代に残していきたいと思える福山をともに作りあげていきましょう。

福山にしか出来ないこと、福山だからこそ出来るまちづくりをともに行いましょう。

持続可能な地域福山実現のため、誰もが挑戦し続けること出来る福山へ変えていきましょう。

青年会議所とは

青年会議所(JC)は“明るい豊かな社会”の実現を理想とし、次代の担い手たる責任感をもった20歳から40歳までの指導者たらんとする青年の団体です。

青年は人種、国籍、性別、職業、宗教の別なく、自由な個人の意志によりその居住する各都市の青年会議所に入会出来ます。

日本青年会議所の事業目標は、“社会と人間の開発”です。その具体的事業としてわれわれは市民社会の一員として、市民の共感を求め社会開発計画による日常活動を展開し、「自由」を基盤とした民主的集団指導能力の開発を推し進めています。

さらに日本の独立と民主主義を守り、自由経済体制の確立による豊かな社会をつくり出すため、市民運動の先頭に立って進む団体、それが青年会議所です。

福山青年会議所の原理原則

青年会議所の事業目標である「社会と人間の開発」のため、福山の地域課題を抽出し、その地域課題を解決することで、どういう状態になりたいのかという目的を設定して、英知を結集して事業を構築し、運動(movement)を巻き起こします。

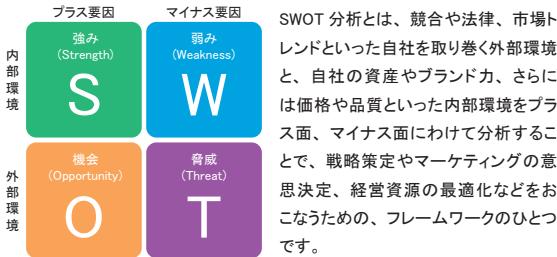
事業を実施した後は、目的を達成出来たか、最適な手法であったかの検証を行い、また新たな地域課題に対して持続的に取り組みます。

このサイクルを繰り返し実施することによって「明るい豊かな社会」の実現を目指します。



現状分析

地域課題を抽出するにあたり現状を把握しておく必要があります。地域課題がどこにあるのかを明確にするため、SWOT分析※を用いて福山の強み・弱み、社会の機会・脅威をまとめ、私たちが出来ることを様々な視点から考え、検証しました。



社 会	脅威
	東京一極集中による地域間格差の拡大、若者が都市部への進出、超高齢化の進展。今後、地域格差はさらに進むことが考えられます。また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響、自然災害の脅威により不安を感じて生活する市民が増加しています。
	機会
	不安が増す一方で、解決に向けて動き出す層が台頭しています。SDGsの認知度も上がりつつあることから、地域課題を自分ごととして捉えるという意識は浸透しつつあります。
	私たちが出来ること
	JCI 福山が地域の課題解決に取り組むこと。潜在している課題の解決はもちろんのこと顕在化している課題に対しても、先進的な知識とアイデアをベースに SDGs などの考えも取り入れながら、運動を展開します。

産 業	脅威
	少子高齢化による労働力の減少、後継者不足が進展し経済が停滞していく中、新型コロナウイルス感染症拡大により更なる影響が懸念されます。後継者不足は、技術の継承が出来なくなることであり福山ブランドの維持が出来なくなります。
	機会
	少子高齢化による労働力の減少、後継者不足を補うテクノロジーの開発。パンデミックにより生まれる新たな価値を活用した福山ブランドの創出をします。
	私たちが出来ること
	世界に広がるネットワークを駆使し得た情報を地域に発信し地方から運動を展開します。DXなどの先進的な技術や情報をいち早く獲得し福山を先導します。

環 境	脅威
	経済発展により、世界的な資源の枯渇と水やエネルギーの不足が懸念されています。昨今の気候変動により、これまでにない災害が発生する可能性が高くなっており、危険が身近に迫っています。経済活動の犠牲により、生物多様性が脅かされています。
	機会
	地域資源を活かして自律的な地域発展を促す「環境未来都市」構想を進展させる地方創生の要として、SDGsが推進されています。また、持続可能な地域資源の調達・操業・投資の実行による組織や地域の差別化、自然資本の活用、環境への負担低減や復元に関するサービスや商品が生まれてきています。
	私たちが出来ること
	持続可能な社会を築くためには「環境」がすべての土台にあり、環境に関する人々の意識を高め、消費行動を変えます。経済活動が環境に良い影響を与える好循環をつくり出すために、温室効果ガスの排出や、自然災害に対するしなやかさを確保します。SDGsをさらに普及させることで市民の意識レベルを向上させます。

人	脅威	住み暮らすまちへの関心不足、少子高齢化による労働力の低下、グローバル人材の不足による発展機会の損失、多様性の理解不足による訪日外国人の環境整備不足となっています。人材への投資を後回しにすることで将来への発展が望めない現状です。
	機会	大幅なデジタル化推進により、時間、場所を問わず発信や運動を起こすことが可能となりました。埋もれていた人材、アイデアが発掘可能になり、年齢、地域を問わず未来のリーダーを生み出すことが出来ます。
財	私たちが出来ること	運動を続け事業を構築し続けることでひとつづりを行います。多様性を認め、時代にあった変革をしていくことでまちのリーダーを生み出し、地域にインパクトを与え続けていきます。

組	脅威	ライフスタイルの多様化や、人口の減少、流出からJCへの入会対象者そのものが減少しています。JCしかなかった時代からJCもある時代の中、改めて組織の価値を考え直す、また少人数でも持続発展が可能な組織づくりも必要です。
	機会	もともと多様な人材からなる組織であるJCは多様性を受け入れやすい組織です。リモート環境の強化や時代の変革期にある今こそが組織をブラッシュアップし、ユニークな組織として外部にアピールし、組織の持続発展が可能となります。
織	私たちが出来ること	活動、事業を通じて産官学の手の届き辛い民間との協働、パートナーシップの橋渡しを行います。社会へインパクトを与え続けるために、社会のニーズに合わせ組織を変革し、社会へ発信をし続けることで人員を確保し持続する組織を構築します。

Strategic Map とは

本書は、JCI 福山がこれからどのように社会をより良くするのかを示す航海図のような役割を果たすためのものです。JCI 福山 は一体感をもたらす機関としてあらゆるパートナーとともに行動し、この計画を実行します。

5年間の計画を策定するにあたり、1年の活動や運動を縛ることや可能性を失うものであってはなりません。本計画は JCI 福山らしく果敢に挑戦していくための計画であり、その道標となって、その方向性を指し示していくものが Strategic Map です。

横 軸

福山・備後／瀬戸・日本
JCI 福山の理念と目標に則り、
それぞれのフィールドで分割



縦 軸

社会・産業・環境・人材・組織
これからの5年間に
取り組んでいくべき課題として分割

Strategic Map

	福山	備後/瀬戸内	日本
社会	多様性を認め、個性を発揮	備後圏域中心都市の存在感の発揮	SDGsの推進
	防災・減災に向けた活動の促進	社会インフラの共有と活用	グローバル化に対応した教育
	時代に即したリテラシーの向上	グローバル進出の促進	権利利益を守る為の国土強靱化
	伝統と文化を承継し、発展	SETOUCHIブランドの創造	安心して出産育児教育が出来る制度設計
産業	公正かつ公平な行政の実現	近隣地域の連携推進	リスク分散の出来る社会の構築
	産業基盤の構築	福祉産業の構築	福祉産業の構築
	教育と子育ての強化	官民が連携出来る制度の策定	官民が連携出来る制度の策定
	地域とのハブ拠点	地産地消の推進	グローバル進出の促進
環境	災害に強いまちの仕組みづくり	地域資源の活用	医療連携による医療体制の強化
	新たな価値を創出し魅力を発信	医療連携による医療体制の強化	日本全体の経済発展への取り組みの理解
	何度でも訪れたいくなる環境の整備	地域の魅力を発信する環境の整備	SDGsの推進
	自然災害への意識向上	災害危険地域の明確化	環境問題の周知
人財	多様化社会の実現	歴史・文化・伝統からの新たな価値の創出	環境問題への取り組みの発信
	魅力・伝統・芸術の承継	SDGsの推進	環境教育の確立
	幅広い世代が住みやすい環境の構築	自然保全による快適な地球環境の創出	日本全体の環境への取り組みの理解
	発信力のある人財の育成	地域の特色を活かすことの出来る人財育成	地域間の魅力を発信出来る人財の育成
組織	SDGsを理解した環境リーダーの育成	地域間の問題提言が行える人財の育成	言語環境整備が行えるグローバル人財の育成
	デジタル人財の育成	地域同士を繋げるパートナーシップの構築	地域の魅力を発信出来る環境の整備
	個人ごとの才能を伸ばす青少年育成	地域の次世代を担える人財の育成	SDGsを理解し、実践出来る人財の育成
	グローバル化、多様化に適應する人財の育成	将来のリーダーを生み出す教育の実施	積極的に出向を行える人財の育成
推進	豊かな自然と魅力を発信する取り組みの実施	地域間のコミュニティの創出	全国的に魅力を発信出来る事業の実施
	デジタル化・グローバル化の浸透	地域の魅力を発信する共同媒体の創出	地域戦略・ビジョンをともにつくる機会の創出
	災害に強いまちづくりの強化	地域間の官民の連携推進	影響力を持った人財の獲得
	会員の多様化の促進	青少年へ地域の魅力を理解させる取り組みの実施	パートナーシップの推進
	主体的仲介者としてSDGsを推進	地域を超えたビジョン策定の機会の創出	JCI 日本への継続的な出向者の輩出

私たちの目指す未来の福山

誰もが挑戦し続けることのできる福山



	福山	備後/瀬戸内	日本
社会	持続可能なまち福山	備後/瀬戸内のハブ拠点福山	明るい豊かなまちを福山から日本へ
産業	産業拠点としての福山	都市間連携が可能な産業	福山独自の産業を日本へ
環境	住みやすい暮らしやすい福山	魅力的な環境	持続可能な日本の創造
人財	まちに寄り添う多様な人財	地域を超えた課題解決が出来る人財	全国に誇ることが出来る人財
組織	まちとともに歩む組織	柔軟な組織	協働出来る組織

【1. 持続可能なまち福山】

福山×社会

1.	様々な人々が多様な個性を認め合い、個々の力を結集出来る社会とする。
2.	市民と行政が協力し合い、防災・減災に向けた活動を進め、災害発生時に助け合うことの出来る強靱な地域コミュニティを築き上げる。
3.	全ての市民が時代に即した活動が出来る能力を身につけ、福山からイノベーションを起こす土壌を築く。
4.	地域に根差した伝統と文化についての理解を深め、次世代への承継・発展を図る。
5.	市民一人ひとりが市政の担い手としての自覚をもち、透明性が高く偏りのない社会の実現を目指す。



【2. 備後／瀬戸内のハブ拠点福山】

備後／瀬戸内×社会

1.	備後／瀬戸内圏域における民間と行政の連携を深め、福山市の独自の価値を発揮する。
2.	備後／瀬戸内圏域での社会インフラを共有し有効活用する。
3.	グローバル進出をするための橋渡しが出来る仕組みづくりをする。
4.	「SETOUCHI」というキーワードによるインバウンドを狙ったブランドをつくり出す。
5.	備後／瀬戸内圏域を対象とした共通の仕組みをつくり、近隣地域の連携を図る。



【3. 明るい豊かなまちを福山から日本へ】

日本×社会

1.	SDGs を推進し明るい豊かな社会を築き上げる。
2.	グローバル化に対応した教育を行い、デジタル・他言語・国同士の相互理解を図る。
3.	権利権益を守るため国土強靱化を図る。
4.	安心して育児が出来る環境をつくるための仕組みづくりをする。
5.	デジタル化により東京一極集中を改善し、有事の際にリスク分散が出来る社会を構築する。



【4. 産業拠点としての福山】

福山×産業

1.	企業が持続的な成長と発展をするために、環境と産業基盤の構築をする。
2.	教育を含め、子育て支援の強化をすることで福山市への興味喚起、移住者増を図り産業基盤の底上げをする。
3.	地域都市のハブ拠点として、福山への滞在時間を延ばすよう、計画的に発展させる。
4.	企業が持続的な経営と成長をするために災害に強いまちへの仕組みづくりをする。
5.	地域の魅力を発信し、福山の新たな価値を創出する。



【5. 都市間連携が可能な産業】

備後／瀬戸内×産業

1.	企業が連携しあい福祉や、それに伴う産業基盤を構築し発展させる。
2.	民間と行政が協力して税制を利用した備後／瀬戸内圏域の連携・交流出来る制度をつくる。
3.	備後／瀬戸内圏域での連携による地産地消推進やPRを行い、地域産業を活性化させる。
4.	地域が連携して、地域資源の活かし方やイベントを発信する。
5.	備後／瀬戸内圏域の市町村で医療を連携し円滑な体制を築き、医療に関わる産業を発展させる。



【6. 福山独自の産業を日本へ】

日本×産業

1.	近隣都市の企業が連携しあい、福祉産業を構築し発展させる。
2.	民間と行政が協力して税制を利用した近隣都市の連携・交流が出来る仕組みをつくる。
3.	近隣都市が共同して、グローバル進出をするための橋渡しが出来する仕組みをつくる。
4.	近隣都市間で医療を連携し円滑な体制を築き、医療に関わる産業を発展させる。
5.	全国各地の青年会議所から出向者が集まる JCI 日本へ継続的に出向者を輩出し、経済発展への情報を展開する。



【7. 住みやすい暮らしやすい福山】

福山×環境

1.	観光都市福山として何度も訪れたいくなるように、環境を整備する。
2.	自然災害に対する意識と知識を高め、行動出来る環境を創出する。
3.	多様化社会を実現するために、デジタルへの適応、言語による障壁をなくすようにインフラを整備し、誰ひとり取り残さない環境を創出する。
4.	福山市民から地元の魅力となる伝統・芸術を発信し後世に伝え残すことが出来る環境を創出する。
5.	福山に長く住みたい、戻ってきたいと思えるように幅広い世代が住みやすい環境を構築する。



【8. 魅力的な環境】

備後／瀬戸内×環境

1.	備後／瀬戸内圏域内の魅力を伝えることが出来る環境を整備し、持続的に発展させる。
2.	災害危険地域を明確化し、誰もが災害に対応出来る環境にする。
3.	伝統を受け継ぐことが出来る環境を構築し、新たな価値観を創出する。
4.	備後／瀬戸内圏域内に住み暮らす人の環境意識を向上させるために、SDGsを推進する。
5.	豊かな自然を保全し、より快適な備後／瀬戸内圏域の環境を創出する。



【9. 持続可能な日本の創造】

日本×環境

1.	環境問題の解決のためにSDGsを推進する。
2.	環境問題を広く周知し解決するために、政府、メディアとの連携を密に図る。
3.	環境問題への取り組みの提言から新たなビジネスモデルを確立し、持続発展が可能な日本をつくる。
4.	環境問題への当事者意識を醸成するために、環境教育を確立する。
5.	日本の環境への取り組みを理解する機会を創出し、環境への意識を向上させる。



【10. まちに寄り添う多様な人財】

福山×人財

1.	福山を愛し福山の魅力を普及させることの出来る人財を育成する。
2.	持続可能な社会の実現に向け次世代を担う環境リーダー、SDGsを理解し実践出来る人財を育成する。
3.	ニューノーマルな時代をけん引出来るデジタル人財を育成する。
4.	子どもたちの可能性を見出し、自信に満ちた人財を育成する。
5.	誰もが住み暮らしやすいまちにするため、グローバル社会に適応出来、多様性を受け入れることの出来る人財を育成する。



【11. 地域を超えた課題解決が出来る人財】

備後／瀬戸内×人財

1.	それぞれの地域の特色を活かすことの出来る人財を育成する。
2.	備後／瀬戸内圏域で起こりうる問題を把握し、行政へ提示出来る人財を育成する。
3.	有事の際や事業構築が必要な時に青年会議所間をつなげることの出来るパートナーシップを構築する。
4.	備後／瀬戸内圏域の次世代を担える人財を育成する。
5.	備後／瀬戸内圏域の子どもたちが将来的なリーダーとなることが出来るように教育する。



【12. 全国に誇ることが出来る人財】

日本×人財

1.	地域間の魅力を掛け合わせて効率よく発信を行うことの出来る人財を育成する。
2.	サービスや言語環境整備を進められるグローバルな人財を育成する。
3.	全国にJCI福山をPR出来る人財の育成と発信出来る環境を整備する。
4.	SDGsを理解し、実践出来る人財を育成する。
5.	出向を学び理解することでJCI日本へ出向する人財を育てる。



【13. まちとともに歩む組織】

福山×組織

1.	福山の豊かな自然や魅力を発信し、福山に興味をもつ人を増やす取り組みをする。
2.	変化に強いまちを実現するため、デジタル化・グローバル化に率先して対応し、浸透させる。
3.	災害対策において行政と連携し、強くなやかなまちを目指す。
4.	変化に対応出来る強い組織であり続けるために、性別、国籍、所属によらない会員を増やし、多様化を促進する。
5.	持続可能な社会の実現に向け、産官学の垣根を越えた主体的仲介者となって SDGs を通じたまちづくりを推進する。



【14. 柔軟な組織】

備後／瀬戸内×組織

1.	備後／瀬戸内圏域内の青年会議所が協力し合うためのコミュニティを創出し、備後／瀬戸内の魅力をともに発信する。
2.	各地域の青年会議所が協働して地域の魅力を発信出来る媒体を構築し運用する。
3.	地域同士が課題解決に向けて協働出来るように、仲介者となり民間と行政をつなぐ。
4.	備後／瀬戸内圏域内に住み暮らす子どもたちが、地域の魅力を再認識出来る事業を青年会議所同士が連携して構築する。
5.	JCI 福山だけではなく備後／瀬戸内という大きな枠組みでの中長期ビジョンをともに考える機会を創出する。



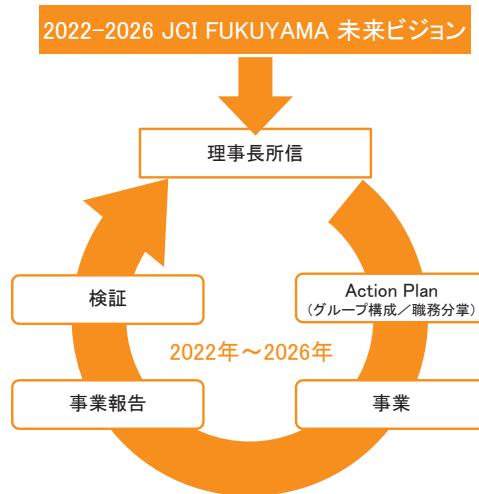
【15. 協働出来る組織】

日本 × 組織

1.	地域の魅力を発信する事業を行い、全国的に認知させる。
2.	全国の青年会議所と連携し地域戦略・ビジョンをともに作り上げる機会を創出する。
3.	全国、世界に対し影響力を与えることが出来る人財を積極的に組織に取り入れる。
4.	全国的な影響力を持つ団体とパートナーシップを結び、協働する。
5.	JCI 日本へ継続的に出向者を輩出し、まちの認知度を向上させるとともにまちを活性化させる。



検証について



※2022-2026 JCI FUKUYAMA未来ビジョンを用いた事業の検証にJCIアクションフレームワークを使用します。JCIアクションフレームワークとは課題と問題解決ツールを観るレンズに匹敵するものです。問題、ニーズや機会を分析して特定し、主な課題に取り組むための計画を立案し、その計画を完全に実行した後成果を見直し、そこでの学びを次の機会に活かすことで、今、事業がどんな段階で何をしなければいけないのか、何が必要なのかをイメージ出来るようにし検証に役立てます。

発行 2021年12月1日
発行者・監修 一般社団法人福山青年会議所

2021年度 一般社団法人福山青年会議所

理事長 宇田 貴美

副理事長 島田 宗輔

(まちのビジョン策定委員会担当)

2022-2026 JCI FUKUYAMA 未来ビジョン策定会議
構成メンバー

座	長	徳岡 旭			
顧	問	村上 達彦	宇田 貴美	島田 宗輔	
副	座	宮迫竜太郎	角甲 俊司	佐藤比香留	
実	長	平井 優作			
記	務	井上 恭輔			
録	者	甲斐 淳芳	藤井 修平	吉本 武史	
委	員	森下 順平	八百村 敬	東 晃弘	
		木村多永子	石井 伸弥	藤井 謙佑	
		柿原 圭介	山根 秀也	貝原 大和	
		藤原 和也	坂谷祐一郎	村上 拓朗	
		内田 誠一	沖 和真	畑 明宏	
		今川 晶斗	藤原 久也	金光宗一郎	
		松田 拓也	小田 祐也	戸田 紫麻	
		橋本裕太郎	塚本 達郎	濱畑 亮太	
		松本 幸子	山本 昂平	長鋪 毅輔	
		宇田 和彦	石川 貴大	中尾 朋宏	

